

1 愛知県立大学

氏名	尾関 菜々子（おぜき ななこ）＜27歳＞
所属等	大学院国際文化研究科 博士前期課程 2年
成績内容	<p>○カタルーニャ・センターの国際連盟「<small>フェデラシオ インタルナシウナル</small> Federació Internacional <small>ダンティタツツ カタラナス</small> d'Entitats Catalanes (FIEC)」(※1) 主催の「第4回文学コンクール短編小説部門アジア・オセアニア大会」に、自ら執筆したカタルーニャ語小説「<small>ウン ディメクラス クアルセボル</small> <i>Un Dimecres Qualsevol</i>」(邦題「とある水曜日」)を出品し、「最優秀賞」を受賞。その後、同連盟主催「第4回世界文学コンクール短編小説部門」(※2)において、「特別賞」を受賞した。</p>
備考	<p>○本学生は、外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻を卒業後、大学院国際文化研究科博士前期課程に入学した。一貫して、スペインのカタルーニャ地方およびカタルーニャ語を専門とし、複数回の留学や現地でのフィールドワークを通じて、言語や文化に関する高度な専門性を培ってきた。</p> <p>○本コンクールは、世界各地のカタルーニャ語話者が翻訳ではなく、カタルーニャ語による短編・長編小説の「創作(文学的な書下ろし)」を競う国際文学賞であり、ヨーロッパ、アメリカ、アジア・オセアニア地域の最優秀作品のみが世界大会に進出する。</p> <p>○受賞作「<small>ウン ディメクラス クアルセボル</small> <i>Un Dimecres Qualsevol</i>」(邦題「とある水曜日」)はバルセロナに実在する公園を舞台に、フィールドワークで培った視点とカタルーニャ語独特の言語表現を用いた作品である。現地審査員からは母語話者でないにもかかわらず、執筆に跳んだ姿勢が高く評価され、特別賞が与えられた。</p> <p>(※1) <small>フェデラシオ インタルナシウナル</small> <small>ダンティタツツ カタラナス</small> カタルーニャ・センター国際連盟「Federació Internacional d'Entitats Catalanes (FIEC)」 世界各地のカタルーニャ文化団体を結ぶ国際組織であり、文学や文化交流を通じた国際的な文化振興を目的として活動している。</p> <p>(※2) 第4回世界文学コンクール短編小説部門 国際文学コンクールの最終段階に位置づけられる大会であり、各地域の大会の最優秀作品のみが出場できる。</p>

団 体 名	<p>国際文化研究科コミュニティ通訳学コース 知事政策提言チーム 代表者：池田 寿美子（いけだ すみこ）＜54 歳＞ （大学院国際文化研究科 博士前期課程 2 年） 始め 10 名</p>
成 績 内 容	<p>○愛知県広報広聴課が企画した「大学生による知事への政策提言会」において、「多文化共生×防災×人材育成 ～世界に誇る防災モデルを愛知から～」をテーマとした政策提言を行った。</p>
備 考	<p>○本学生は、愛知県広報広聴課が企画した「大学生による知事への政策提言会」に向け、国際文化研究科の大学院生によるチームを率い、多文化共生および防災分野に関する自主的な調査、研究、検討を主導した。</p> <p>○アジア大会開催に向けた災害リスクマネジメントに関する調査では、シンガポール代表団との意見交換の場において通訳を担当した。この経験を通じ、防災分野における多言語情報発信の重要性を確信し、提言にも反映されることとなった。</p> <p>○南海トラフ巨大地震を見据え、多文化共生の視点から、多言語対応や防災人材の育成を含む政策提言を行った。外国人住民を支援の対象にとどめず、地域防災の担い手として位置づけ、平時から共に備え、災害時に力を発揮できる体制づくりの必要性について説明し、知事も関心を示し、「実現できるものは実現し、取りいれていきたい」との発言があった。</p> <p>○これら一連の取組は、単なる提案活動にとどまらず、大学院で培った専門性と高い公共意識をもって、学術的知見を政策に落とし込もうとする実践的な試みであり、大学院教育の成果を端的に示す実績である。</p> <p>○本取組は取材を受け、NHK 夕方のニュース（2025 年 11 月 29 日（土）放送）にて報道されたほか、「朝日新聞」「中日新聞」2025 年 11 月 30 日（日）の朝刊にも掲載された。</p>

2 愛知県立芸術大学

氏 名	篠原 夕佳（しのはら ゆうか）＜24 歳＞
所 属 等	大学院音楽研究科 博士前期課程 音楽専攻（声楽領域）2 年
成 績 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●第 79 回全日本学生音楽コンクール名古屋大会 声楽部門 大学の部 第 1 位 ●第 79 回全日本学生音楽コンクール全国大会 声楽部門 大学の部 入選 ●愛知県立芸術大学オペラ 2025「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・エルヴィーラ 役で出演
備 考	<p>【全日本学生音楽コンクール】</p> <p>毎日新聞社主催の学生向け音楽コンクール。地区予選と地区本選を勝ち抜いた優秀な学生が全国大会に出場する、音楽家を志す学生にとって登竜門ともいえるコンクールである。1947 年の開催以来、著名な音楽家を多く輩出した権威ある音学コンクールの一つである。</p> <p>【愛知県立芸術大学オペラ】</p> <p>毎年 12 月に愛知県立芸術大学が開催するオペラ公演。大学院博士前期課程声楽専攻の学生がキャストとして出演する。大学院美術研究科の教員・学生による舞台美術デザインのもと、音楽学部・大学院音楽研究科学生や教員のキャスト、合唱、管弦楽団としての出演はもちろん、稽古ピアノ（鍵盤楽器領域）に至るまで、大学の総力を結集して開催される。</p>

氏名	水野 太貴 (みずの たいき) <23歳>
所属等	美術学部 美術科 彫刻専攻 4年
成績内容	<p>○プロジェクト主催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんもないスペース (2025年) <p>○プロジェクト参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛・地球博20祭 光小屋プロジェクト (2025年)
備考	<p>【なんもないスペース】</p> <p>自身が主催するアートプロジェクトで、既存のギャラリーや展示空間に縛られず、文字どおり「なんもない」場所や空きスペースに独自の価値を見出し、彫刻やインスタレーションを通じて新しい空間体験を提示すること目的としている。</p> <p>【愛・地球博20祭 光小屋プロジェクト】</p> <p>愛・地球博20祭の企画の一つ。未利用材の活用を通じて、現代の森林課題に向き合う。学生・企業・行政が協働し、森のあり方や生き物との関係性を考えながら、企画・制作を進行した。かつて、愛知万博で生まれた「光小屋」を舞台に、山の現状を伝えるインスタレーションを制作。</p>